

## 満月と海―アカテガニ

「きゃあ。」

わたしがそうじをしていると、くつ箱の後ろからカニが出てきた。わたしたちの学校は音戸にある。校庭の横には海があるが、どうしてこんなところまで上がってきたのだろうか。

「この間もろうかにカニがおったよ。一年生がカニをつかまえようとしてはさみがとれとったよ。何かこのごろカニがようけおるね。」

友だちと話をしながら、ほうきでカニを追いはらおうとさわいでいたわたしたちは、先生に遊んでいると思われ、しかられてしまった。

「もうすぐ満月じゃけんしょうがない。そんなことにかまわずそうじしなさい。」

先生はそう言うと、別のそうじ場所に行つてしまわれたが、わたしはカニと満月とどういう関係があるのか気になった。



放課後、わたしはそのことを先生に聞きに行った。先生は笑いながらいろんなことを教えてくださった。

「さっきのカニはアカテガニというのよ。いつもは海の近くの山の中腹の沢にすんでいるんだけど、夏の満月の夜にたまごを産むために山から海に下りてくるのよ。もうすぐ満月だからね。」

「そういえば、道路や学校のちゆう車場で車にひかれたカニを見たことがある。あれは海に行くために道路を横断していたんだ。」

わたしがそうつぶやくと、先生はうなずいてくださった。夏の暑い日、太陽に照らされ暑くなったセメントの道を通り、国道のき険なアスファルトの道を命がけで渡ってきたアカテガニ。くつ箱の後ろにかくれて体を休めていたのかと思うと、アカテガニを見てさわぎ追いはらおうとした自分はずかしくなってきた。うつむいてだまっているわたしの様子を見ていた先生は

『名を知るは愛の始まり』って聞いたことある？先生が昔お世話になった植物博士に教えてもらった言葉なのよ。名前が分かるとその人やその生物、その植物のことをもつと知りたくなるでしょう。大切にしようと思うでしょう。だからあなたにとって今日がアカテガニへの愛の始まりね。」

と、照れくさそうにおっしゃった。わたしも思わず笑ってしまった。

「興味があるなら、アカテガニ産らんの観察会に行つてみる？たぶんそろそろあるはずよ。」

わたしは先生に紹介してもらつて父と観察会に参加することにした。

いよいよ観察会。日もくれかけた海岸に観察会に参加する人たちが集まつてきた。道路をはさんで山はだと海岸が向かい合っている場所を歩くと、草むらからかさかさとしてアカテガニの動く音が聞こえてきた。





あたりが暗くなるにつれて、青くきれいな海に満月が光り始めた。アカテガニも海岸に集まり始め、わたしたちはたまごをかかえたアカテガニを追って波打ち際まできた。そこにはたくさんのアカテガニがいた。

「あつ、ぶるぶるしよる。」

「こつちにもおるよ。」

参加者もわたしも大喜び。波が来て海水につかったアカテガニは、体をぶるぶるふるわせて何万个ものたまごを海に放っているのだ。産らんのしゅん間海水が黒っぽくにごるのも分かった。産らんは二、三秒で終わるが、たくさんのアカテガニがけん命に山から海に下り、産らんしている姿を見たわたしは言葉を失ってしまった。



途中、観察会の係の方が産らんの説明をしてくださった。「アカテガニやカブトガニなどの節足動物の多くは、夏に産らんの時期をむかえます。アカテガニは、この時期に二、三回の産らんを行います。いずれも、大潮の満潮の時こくに合わせて海に下りてきます。どうやってその時こくを知る事ができるのか、生物の持つ『体内時計』とは実に不思議な能力です。一回の産らんで海に放たれるたまごの数は、一個体あたり数万個と言われていますが、成体にまでなれるのは、わずか数ひきだけ。今、わたしたちが目にしているアカテガニは、かこくな生ぞん競争を生きぬいてきたものたちばかりなのです。山側の岩では産らんを終えたメスをオスが待っています。次の産らんに備えるためです。」

係の方は、さらにけんび鏡を使って活発に泳ぎ回るゾエア幼生を見せてくださいました。メスのかかえているたまごは、海水につかるとしゅん時にゾエアよう生にふ化し、大海原に放たれ\*<sub>2</sub>プランクトン生活を送るのだそう。その後だっ皮をくり返し、やがてカニの姿になって海から陸へと生活の場を移していくらしい。

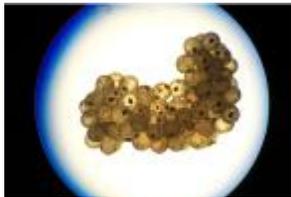
観察会からの帰り道、車の中で父がサンゴの産らんやクサフグの産らんも満月や新月の大潮の日に行われることを話してくれた。わたしは、これまでのできごとを思い出しながら満月やその光に照らされた海を見つめていた。



カブトガニの産らん



クサフグの産らん



アカテガニのたまご



ゾエア幼生

\*1ゾエア幼生…カニやエビ等の甲殻類が、卵から生まれて数日たった二ミリくらいのプランクトンの状態。

\*2プランクトン…水面や水中にふくまれる微生物。